

午後からはお待ちかねのオーガニックコットンセミナー。



和綿は5月に種を撒き、5月-12月に収穫します。農家は冬の間綿から種をとり、紡いで糸にし、機を織る作業をしていました。渡良瀬エコビレッジには江戸時代、明治、大正、昭和の手動の綿くり機と、電動綿くり機（右奥）があります。参加者のみなさん、ギコギコ音をたてながら、楽しそうに綿くり作業に没頭していました。



二本のローラーの間に綿を入れ、ハンドルを回します。手前に種が落ち、奥には綿がおくられる仕組み。



綿くりが終わった跡は弓打で軟らかくほぐし、



升の上で正方形にまとめ、適当な棒を芯にして巻いて篠をつくります。



篠の中心から一本糸を引き出したら、段ボールの円とかぎ針を組み合わせてつくったコマにかけ、紡いでいきます。

